

特集 40年のご厚情を糧に

▶北総育成園創立40周年記念式典。武井園長が40年の歴史を振り返る。隣には42期村長で園長の戦友でもある福田さん。(H27・4・16)



▶北総源流の人、阿部信一さんとお姉さん、横には松戸市長さん。



阿部信一さん紹介

(P6街道をゆくと一部記事が重なります)

一人の利用者を紹介させて頂きます。阿部信一

さんです。昭和16年生まれ。今年、75歳になりました。船橋市は震災に合わないですんだ街。その敗戦後の混乱の色濃い街の電信柱に「障害をを持った子の親は集まりませんか」の

はり紙をして歩く母と姉と幼子。阿部信一さんの母、幸乃さんとお姉さんと信一さんです。その貼り紙を見て何人かのちははが集まりました。昭和29年船橋手をつなぐ親の会発足。以後、「親亡き後、わが子が幸せに暮らせる場所」を作ることを目標に、育成会活動は戦後復興と重なる形で継続。

阿部信一さんは昭和49年、北総開園の二期生として5月1日より北総の人となりました。小児マヒの後遺症ということで足が悪く、当時から右手に杖を付いての歩行。厳つい顔で、最初に会った時、保護者と勘違い思わず頭を下げてしまいました。そんな阿部さんの上にも歳月は流れ、ちちははは既に30年前に他界。今はお姉さんが後見人。そして、今こそお母さんの願いとしての「親亡き後の阿部さんの、あるべき暮らし」は成立しています。

阿部さんの障害は歳とともに進み、

発行日 2015. 6. 26
第 230 号
(第 1 回発行)
1974年4月1日
発行所 北総育成園
千葉県香取郡東庄町
笹川い5852
☎ 0478-86-3003
FAX 0478-86-3295

北総育成園のホームページが
新しくなりました!

施設の概要や理念、利用者の様子、
園長からのお知らせ等、盛りたくさん!
ぜひアクセスしてみてください。

ホームページアドレス
<http://www.hokuso-ikuseien.org/>

Eメールアドレス
hokusoikuseien@e-sazankakai.or.jp

75歳の今、首から下に力が入らない。それでも辛うじて動く手先で陶芸班で手ひねりの壺を作り、下座囃子の太鼓を叩きます。その太鼓はこれからの下座演奏で皆様にご披露致します。

入浴は男性職員3人がかり。この度の工事で機械浴槽が出来、早速利用した阿部さんは目を輝かせて「きもちいいね! きもちいいね!」と同じ言葉を二度繰り返しました。もう少し身体が何とかなっていた頃は、作業班旅行で色んな温泉地に泊まり温泉に浸かるのを何よりの楽しみにしていた阿部さんでした。そのことを思い出したのでしょうか。(武井)

※阿部信一さんがこの場をお借りして松戸船橋市長さんにお礼の言葉を伝えます。

まつど ふなばししちようさんへ
ぼくのおかあさんはぼくのためにくろうしました。
ほくそうができてうれしかったです。
おかあさんがなくなって ほくはほくそう
でとうげいのしごとをしてがんばってきました。
おねえさんがおかあさんのかわりです。
こんどはこしつになりました。かいごのお
ふろにもは入れてほんとうにうれしかったです。
ありがとうございます。どうか、これからもおねがいします。
27年4月16日 あべ しんいち

創立40周年記念式典御礼

北総育成園副園長
白樫 久子

十年一昔ともうしますから北総育成園が開園したのはもう四昔になります。本来は平成26年度が40周年でありましたが、船橋市事業によるバリアフリー新棟建設・既存棟大改修工事を終えた園舎の御披露もかね、今年4月16日に記念式典を行いました。

して身の引き締まる思いで準備に当たって参りました。決して建物だけを見て頂くのではなく、東庄の豊かな自然に溶け込み周囲の環境整備がされてこそその北総の里であるとして、職員一丸となってその準備を進めてきました。

既に武井園長指揮の下、絵鳩編集長が創立40周年記念誌の編集を進めており、また記念品は北総らしく作業製品をと各班その作成に取りかかっておりました。しかし2月中旬にご案内状を発送してからは当日に向かつて現実味が帯び実行委員長と

お陰さまで当日は抜けるような春の青空のもと、多くのお客様をお迎えすることが出来ました。皆様誠にありがとうございました。そして船橋市松戸市長、東庄町岩田町長、千葉県知的障害者福祉協会里見会長、そして長崎県より姉妹提携施設

コスモス会の本多利一郎さんにも御臨席賜り、温かいご祝辞を頂戴致しました。深く感謝申し上げます。式典に先立ち40年のスライドを上映しその時々の苦労と思い出を振り返りました。そして利用者代表阿部信一さんがお姉様と共に松戸市長さんに直接御礼の言葉をお伝えすることが出来ました。阿部さんのお母様は長く北総育成園設立の為に尽力されました。今はきつと天国で、古希を過ぎた信一さんの生活と北総40周年をお祝いして下さっていると思えます。最後に新装プレールーム舞台榊落とし公演として、北総の里よたよた下座連のお囃子と踊りを見て頂きました。創立当初より地域の皆様にと

祝 辞

本日は社会福祉法人さざんか会 北総育成園創立40周年、又待望の個室化された新園舎の完成誠にありがとうございます。

40周年という記念すべき日に、又このような素晴らしい式典へ私共を招待頂きましたこと大変光栄に存じます。

北総育成園の日頃の活躍は福祉関係者はもちろんの事、地域の皆様なら誰でも周知のことと思います。

この40年間の輝かしい北総育成園の足跡を顧みますと、いかに障害をもった人達に寄り添い、この人達と共に考え、伴に行動されて来たかと良くわかります。

私共も平成4年、普賢岳噴火災害で一番苦しい時期に姉妹提携を結び強い絆のもと何度も、何度も、励まされ乗り越えることができました。

この事を縁に交流が始まり「働くこと生きること」「一期一会一輪の花」という北総の言葉から私共のそれまでの活動から何かが変わっていったのです。「この道しかない」という覚悟、日常生活の質の向上に止まることなく、人生の質の向上へ進むべきと悟らせたのです。

今日、私共コスモス会が地域の中で自らの役割を自覚し、未来への方向付けができたのもいかに姉である北総育成園の存在が大きかったかと思うと、只々感謝の一言であります。

40年間を期に、益々北総育成園は日本の福祉危機に十分対応できる理念と実行力を持った法人であり、その存在感をアピールすべきであります。

終わりになりますが、北総育成園の益々のご発展と理事長様、園長様はじめ関係者の皆様方のご多幸とご健勝を祈念致しまして、お祝いの言葉と致します。

平成27年4月16日

社会福祉法人 コスモス会
理事長 本田 利峰

※当日は理事長代理である本田利一郎さんが代読していただきました。

5月に入り東庄は田の稲が水面に輝き、北総農耕班の畑には新玉ねぎが豊かに収穫され、初夏の風物詩林産班のドクダミ採りが始まりました。白亜の新しい建物が作業で疲れたこの人達をゆったりと包みます。60歳以上の利用者が4分の1を超え平均年齢が53歳の北総育成園は、これからこそ四昔前の設立時の理念を大切にその責任を果たしていかなくてはなりません。どうぞ今後も皆様の温かい支援ご鞭撻を頂戴したくお願い申し上げます。



▲新装プレールーム特設舞台「榊落とし」は北総下座連。この晴れの舞台が最終公演となる。



第43期

北総の里村長には

菅谷行男さん!!

▲「バンザイ！」当選の喜びを椎の木西寮の仲間と共に分かち合う菅谷新村長。



▲第43期北総の里村長、村議員ここに誕生！
向かって右から村長の菅谷さん、村議員の安部さん、山本さん、堀川さん、田久保さん、石毛さん、堀越さん。H27.5.14



【北総の里 有権者数】

利 用 者	81
職 員	62
名 誉 村 民	15
笹川なずな工房利用者	27
笹川なずな工房職員	11
合 計	196

7 票	12 票	12 票	② 13 票	② 13 票	② 13 票	② 13 票	④ 14 票	④ 16 票	④ 16 票	④ 18 票	④ 20 票	④ 29 票	【村議員】	② 42 票	② 58 票	④ 96 票	【村長】
石井	猪瀬美佐子	大河原一男	齊藤 敬子	渡辺 庸一	天野 照人	澀川 和久	堀越 正明	石毛 洋平	田久保 茂	堀川 明美	山本 泰三	安部百合子		福田 克三	春日 孝	菅谷 行男	
43	38	59	53	56	49	51	55	36	57	43	73	63		64	58	44	
現	新	新	新	新	新	新	新	新	現	現	現	新		現	新	新	

開票結果

選挙日程

- 村長・村議員選挙公示日 5月7日(木)
- 立候補届提出締切 5月9日(土)午後1時まで
- 選挙運動期間 立候補届出受理後～5月14日
- 立合演説会 5月9日(土)・5月14日(木)
- 投票日 5月14日(木)
- 新村長による組閣及び係活動希望調査 5月14日(木) 午後7時30分～8時

新村長 菅谷行男さん プロフィール

北総の多くは船橋の人。行男さんは地元小見川生まれ。縁あって平成元年から北総の人となる。今年44歳と男盛り、働き盛りの行男さん。林産班に所属し、椎茸の原木運びでは自分で運ぶだけでなく、仲間に声を掛けて原木を渡してくれるなどリーダー的存在。そして、行男さんと言えば、お祭男！小さい頃から色々なお祭りに顔を出し、地元ではちょっとした有名人。太鼓や笛からなる芸座のリズムが体に染み込み、聞けば体が自然に動いてしまふ程です。北総芸座連でも大太鼓を担当しており男らしい姿を見せてくれます。そんな行男さんですが、気弱で意気地なし、言いたいことが言えずもじもじしてしまふ様子があります。村長になったからには皆を引っ張っていきける強さを目指し、高齢化が顕著になった北総を支えて下さいねー！

るからには当選！」という強い思いで選挙戦に臨んだ。

投票日当日は勝負服である阪神タイガースのユニフォームに「必勝」鉢巻と、少しでも目立つようにどこしらえた花柄タスキを身に着け、いざ出陣。百合子さんは少し怒りっぽい所があり人望が薄い。それでも百合子さんの優しさをアピールした最後の立合演説も無事終わり、いよいよ開票。投票の介助人の情報によるとやはりあざみ寮の利用者票は思ったより少なく苦戦の様子。「今年もだめだったらどうしよう」。緊張の中開票が始まる。「安部！」と名前が呼ばれる度に「やったー！」と拍手で盛り上げるが当選確実ラインの20票獲得するまでは油断できず「早く終わってくれ！」と言うのが正直な気持ちだった。しかし、その後順調に票を伸ばしていく百合子さん。気付けば目標の20票を越え、いち早く当選確実の花が園長の手によって付けられた。結果、なんとトップ当選!!「バンザイ！」と喜ぶ百合子さん。その顔は喜びはもちろんホツとしたような表情だった。

北総の村議会選挙の真髄は「役

割と出番のある暮らし」を整えることと「人間力を育む」こと。出馬する利用者の人格を賭けた戦いに、担任職員は真剣に向き合い、選挙戦を通して「この人をもっと良い状態に変えるぞ」という情熱を持って取り組まなければただの「選挙ごっこ」になってしまう。北総は園長指揮の下、40年以上この取り組みを継続している。今回の百合子さんのトップ当選の背景にも、この思いが強く働き園全体を機運となり、職員票を多数集める結果に繋がったと感じる。

トップ当選を果たした百合子さん。園長の助言もあり公約である「皆に優しくします」の具現化として「食堂前の椅子には座らない」ことを約束。これは新棟の食堂前の廊下に行くつか介護椅子を設置してあるのだが、その一つに百合子さんが座り、つい周りにいる利用者に注意をしてみよう光景が毎日ある。働き者でしっかり者の百合子さんなのだがその分他生に對し強い態度になってしまふのだ。担任としても何とかしたい気持ちがあつたがどうにも出来ない現状であつた。しかし、今回のトップ当選はそれを直す絶好のチャンス。

早速百合子さんに「あの椅子は足の不自由な人や移動介助が必要なの為に空けておきたいんだ。百合子さん村議員さんになって、しかも一位でなつたんだからできるよね」と言う。「はい！わかりました！」と即答。その日の夕方から食事前は自室で過ごし食事が始まつてから移動する姿があつた。「百合子さんが席を譲ってくれるから助かるよ。ありがとうございませう！」とお礼を言うと「はい！そんざいんだからね。しっかりとやらんと！」と笑顔で答える百合子さん。園長からいつも「村議会選挙はその人をより良い状態に変える最高の動機づけになる」と言われているが、今回その事が身に染みてわかつた。また一つ、素敵な魅力が増えた百合子さん。この選挙を通して分かち合えた喜びを信頼に繋げ、一年間村議員としての職務を全うできるように担任として全力で支えたい。

(あざみ寮担任 絵鳩典子)

初めて村議員選挙に参加して

谷川 亜矢

今回、初めて選挙戦の一部始終を見て、利用者の皆さんも職員も

本気で取り組んでいる様子がわかりました。特に利用者は選挙に立候補するからには一人ひとり自分の行動に責任を持って少しでも周りに良い所を見せようと頑張っていました。私が担当する椎の木西寮から村長選に出馬した菅谷さんも日頃から色々頑張ってくれていますが、選挙の時はそれ以上に色々なことを積極的に行ってくれていました。そして立候補した利用者者が積極的に取り組めるようサポートをし意欲を引き出す役目を担うのが職員でした。日頃の声掛けからポスター作りなど様々なことを担任としてアシストしていましたが、落選してしまう人も何人かおり、精神的に辛い気持ちから落ち着かない様子もありましたが、それも含めてサポートしていくのが職員であり大変さも実感しました。



▲落選の大河原氏。もう来年を目指して雑巾掛け。

街道をゆく

128

北総育成園40周年

記念式典園長挨拶

武井 敏朗

(※この頁は去る4月16日北総育成園

創立40周年記念式典園長挨拶を流用)

本日4月16日(木)は大安であります。記念式典当日については今日の日にごだわっていました。竣工なった建物を見て頂くこと。20年前、園周辺に植樹された桜120本が何とか散らないうで皆様の目に留まるギリギリであること。4月1日から開始された全員個室暮らしの雰囲気皆様に見て頂くこと。そして、何より今日は好い天気になりました。

本日は松戸船橋市長、岩田東庄町長、千葉県知的障害者協会・里見会長を筆頭に入所支援・生活介護(昔の知的障害者入所更生施設)を担う施設長仲間にご参集頂きました。また姉妹施設長崎島原コスモス会からは本田利一郎さんが馳せ参じて下さいました。

あの未曾有の東日本大震災の年、平成23年11月から船橋市事業として開始された北総育成園新築工事。引き続きこの本館大改修工事。足掛け3年の歳月を経て昨年11月に無事竣工。その船橋市事業と北総40周年とが重なることになり、全て個室化されたその中身を見て頂く機会と、北総育成園創立40周

年お祝いを重ねる形で、皆様にご案内申し上げましたところ、多くの皆様にご参集頂き心より御礼申し上げます。

利用者は40年の歳月を経て完全個室化された大きな暮らしの変化の中に身を置き、一人一人はその個室暮らしを喜んだり戸惑ったり、早速いろいろなことが起こっています。

隣の利用者を紹介します。福田克三さん(ダウン症)です。今年65歳になりました。北総の里第42代村長です。亡くなられた彼のお父さんと三十年前こんな約束をしました。「克三くんは武井さんとどっちが長生きすべーや」。もし、克三くんの方が長生きしたら、武井さんの棺桶かつぐべーや」「もし、反対なら克三くんの方が長生きすべーや」。勿論当然私の方が長生きするに決まっていますとその時は思いました。が、ここに至って「もしかしたら克三さんの方が長生きするのでは」と彼の今の元気を眩しく見ることがあります。

ここで福田村長が皆様にご挨拶を申し上げます。

「ミナサン、アリガトウゴザイマス」千葉県には現在約60箇所の入所支援施設があります。その施設の立ち上げはそれぞれがそれに至る源流を持ち、その建設の為の理解者を確保し、行政とその建設について協議を重ね建設に漕ぎ着け、職員を確保し、利用者を受け入れ、その後はこの人たちのあるべき暮らしの形を模索しながら今日に至りました。今日、ご参集下さった皆様

は当にその最前線を担われて日夜ご苦労されております。

当園の源流は敗戦後の船橋市のわが子を思う、母の一枚の貼紙から始まりました。船橋市は戦災に合わないですんだ街。昭和27、8年、その街の電信柱に「障害を持った子の親は集まりませんか」の貼紙をして歩く母と姉と幼子。阿部信一さんの母、幸乃さんとお姉さんと信一さんです。後程、その阿部信一さんを皆様にご紹介させていただきます。

その貼紙を見て何人かのちははが集まりました。それが船橋市手をつなぐ育成会につながる最初の一滴。昭和29年、船橋市手を繋ぐ親の会が発足。「親亡き後、わが子が幸せに暮らせる場所を作ること」。以来、親の会としてバザーをし資金を貯め、また、船橋市に働き掛け、歳月は過ぎ念願の北総育成園が誕生したのは昭和49年のこと。船橋市から80km離れている場所、必ずしも適地に出来たとは言えなかったかも知れませんが。

当初、この人達は親元離れての共同生活でどんなに心細いことだったでしょう。きつと布団のなかで「とおちゃんかあちゃん」と泣いたことでしょうか。そのとおちゃんかあちゃんが、一カ月経ったら外泊受入で迎えに来てくれました。

そして、何より、東庄町の皆さんの暖かいご厚情があったこと。下座囃子を教えにきてくれた皆さん、ボランティアでいろいろ助けてくれる皆さん。

。遠くの親戚より近くの他人、この東庄香取地域の皆様の温かい懐の中で40年の歳月は流れていきました。

その歳月の、楽しいこと、苦しいこと、悲しい別れ、いろんなことが付きまといまいます。北総の40年の流れも平穏な日々ばかりではなく、へこたれそうなのは数え切れませんが、何とかな本日に辿り着けたのは船橋行政当局のご理解、地域の皆様のご厚情、そして今日、ご参集の多くの施設の仲間のご理解、それぞれの時代を支えてくれた職員、等、ここには書き切れません。

そんな中、この人たちも十分歳を取りました。平均年齢55歳。60歳以上は25人を数えます。40年経ってそのことに苦慮することが日々の仕事に加わりました。

個室化と高齢化を引き受けて、私が入所施設こそこの人たちを護る。そのことの有益性を改めて意識し、北総のこれからのこの人たちとの暮らしを整えて生きたいと存じます。建物は立派に出来ても、その施設が良い施設であることは意味しません。この人たちに寄り添うこの仕事。北総では「一期一会一輪の花」という言葉を大切にしています。旅遥かなり。仏に魂を入れる取り組みは今、そしてこれから長く続きます。

本日は北総創立40周年記念式典にご列席下さり誠にありがとうございます。

北総俳壇

新学期、
新しい生活

◎ 一席
○ 二席

・ 社会人 心身ともに緊張し
ほっと一息 葉桜満開 高橋 千夏
・ 一歩前進二歩後退、ゆつくりと進もう。

○ 葉桜の季節に出会う真の友 五味潤礼乃
新しい出会い。

・ くるまいすくるまでまわってくださん 遠藤 武史
ゆとり ユーモア 夢はこちらの姿勢次第。

・ ありのまま どんな姿も 受け入れる 柿 志保
決意表明。

・ 春の空 舞う粉で涙 止まらない 平塚 恵理
春は辛い。

○ 北総の 春を祝い 遠藤 洋介
※遠藤とは遠くて聞こえる蛙の声
新人のくせに良い句。

・ 春が来た 出会いと別れ アネモネと 鶴野 将悟
格好つけすぎ。

○ 満開の 桜愛でれば また思う 孝之
去りゆく君を 去りゆく日々を
意味深い 今年の春は。

・ 新人が 入り気持ちも ひきしまる 安藤 悠果
「私やります」 忘れたくない この気持ち

・ 40年 北総下座も高齢化 保科 智子
ふらつきながらも 生き生き踊る
先輩の自覚やよし。

○ おいしかったと 聞きたくて 齋藤 到
今年もみんな汗流す
今年も良い野菜を作るぞ。

・ 大粒の 汗は努力の 証です 加瀬 裕一
暑さに負けず 仕事に励む
その通り。この人たちと共働するぞ。

・ 外泊の 話を聞ける 人わずか 高木 恭一
人生は厳しい。

・ 来年もこの花々が 見れるかな 藤原 加奈
そんな悲しいこと言うでない。

◎ 昼下がり 耳を澄ますと 雉の声 伊藤 崇
良い句です。

・ 春になり カエル見つけて 「久しぶり」
○ 「おかえり」と 皆の顔が 寂しそう (外泊後)
○ たくさんの 保護者と 築いた 40年 三浦 圭織
三浦さんは上手だ。

* 杉本和彦コーナー
※全部屋個室化した北総を詠む

○ 個室化で 居心地良いのか 引きこもり
個室化で 職員掃除が 大変だ

・ 広くなり 心も広く ケンカ減る
・ 一人部屋 無音の時間 長すぎる
・ 個室化で 静かな廊下 淋しいな
この人たちにとって個室は幸せなことなのか、
いや幸せなことなのだ。

選者寸評

日本の国はどこへ行くのか。5年先のオリンピックまでは空ふかしのバブル景気が続く。それが終われば、糸の切れたやっこ風のようにさまよふのだろうか。

北総は今年、何人かの良い職員が着任してくれた。今号の俳句コーナーでは一年生の投句がなかなか良い出来で感心した。伊藤君の句は井月の「こやりに鶴の声聞く霞かな」に似ている。雉の「ケンケン」と鳴く声をどう聞かか。

杉本氏はそんなに苦労して作っていないと思うが、すらすらと何句か詠んだ。北総は全て個室化された。はたしてそれは吉か凶か。(虎風山人)

太田川のほとり (125)



バリアフリー新棟の建設、本館の大改修工事が終わり、全部屋個室となった北総の暮らし。自分だけのスペースが持てる個室に利用者は大喜びの一方で他利用者との交流が減り「個室化は孤立化」といった側面も見えてきました。その他にも機械浴槽の導入など、高齢化が顕著になった北総の実情に合わせた設備が整った暮らしが始まりました。今号の太田川のほとりでは新しい暮らしの中で見えた利用者の表情をまとめました。

① 太田さんの入浴

今年75歳になる太田さん。生まれつき足に麻痺があり歩行が困難でしたが、高齢化に伴い身体機能の低下が顕著になり、4年前より車椅子生活を送っています。関節の拘縮や筋力の低下もあり介護度が高いですが、日中は手芸介護班に参加し何とか皆の中で生活しています。太田さんはお風呂が大好きでいつも職員を見つけると「きょう、おふるある？」と聞く様子があります。今年度より機械浴槽が導入され、太田さんでも使用できることになりました。第一回目の機械浴槽での入浴は初めてのことで戸惑う様子もあつたようです

② 一人部屋は寂しい？

今まで吉井さんと敬子さんは同室でしたが、全部屋個室となり、敬子さんはのぎく寮へ移動になりました。同室の時は部屋に行くと「なあ、ちよこ」「けいこ、きがえつと」とお互い声を掛けあうことがあつたが、今は一人でベッドに座っている吉井さん。私が入ると「ポランチョン(ポランティア)きたよ」とたかねさんとさんぽいった」と話し始めます。話好きな吉井さんなので、個室での生活は少し寂しいのかと感じました。(大中)

第2回野の花広場須賀山城址開山祭り

平成27年5月23日(土)

去る5月23日(土)、第2回野の花広場・須賀山城址開山祭りを開催しました。地域の歴史遺産でも

もある須賀山城址の再生に取り掛かったのは平成25年4月のこと。北総創立40周年を迎え、長年お世話になっていく地域の皆様への万分の一の恩返しになればと、武井園長指揮の下、篠竹に覆われジャングル状態であった本丸跡地を中心に一年かけて整備を進めてきました。そして昨年の5月24日に第1回野の花広場・須賀山城址開山祭りの開催に漕ぎ着け、地域の皆様にも多数ご参加頂きました。この再生事業の成功は職員だけの手によるものではなく、刈り取った篠竹を一生懸命運んでくれた利用者の頑張り抜きには語れません。職員、利用者一丸となった整備事業はその後も継続され、今年度は本丸に続く空堀や展望テラスの整備に着手。城址再生委員会チームの高木主任を中心に整備を進めました。空堀の整備は苦労も多かったですが、北総に隣接する東福寺裏の竹林まで散策できるようになりました。第2回を迎える開山祭

りではこの空堀も大きな見せ場として地域向けに新聞折り込みチラシも配布しました。

当日は初夏を思わせる最高の天気で、青い空に新緑が映えこのお祭りを祝福してくれているようにでした。地域のみなさんも開山セレモニーから多数ご参加下さり、特別来賓として東庄町会議員の鎌形議長、須賀山城址保存協会の鎌もある林議員、平野会長、そして香取市の森山城址保存会の小川さんからご挨拶いただきました。テープカットの後「エイエイオー！」



▲須賀山城址本丸、東氏の家紋幟旗の下、登山者全員で記念撮影。園芸班がこの日の為に植えた花々が彩りを添える。H27.5.23

の掛け声も勇ましくいざ須賀山城址登山開始。総勢100名以上の隊列が進みます。隊列の中には男性新職員で編成した籠持ちの姿も。本丸で振る舞うジュースやお菓子が入った籠を「エイサホイサー」と運びました。本丸に到着し東野氏の家紋幟旗を囲み記念撮影。

そして本丸でのメインイベント、当園職員高橋3段と遠藤初段による剣道の型披露。道着姿の二人の掛け声と太刀の音に本丸は神聖な空気に包まれました。そして遙か戦国時代に思いを馳せ、職員扮する武田軍VS東氏軍による騎馬戦も披露。白熱した戦いに観覧していた地域の皆様からも歓声があがりました。下山後は野の花広場に場所を移し、模擬店、花園真訪社中や大木戸芸座連の皆様による舞台発表、そして北総からも芸座とどっこい一座による寸劇を披露しました。北総や笹川なずな工房の利用者と職員、そして地域の皆様が一堂に会しお祭りを楽しむ時間はとても贅沢なものでした。今後須賀山城址再生事業を継続し、北総があることが地域の皆様の力となるよう精進して参りたいと思います。(実行委員長 猪田)

編集後記

早いもので2015年も半年が過ぎました。北総の里では農耕班のタマネギ収穫や林産班のドクダミ採りなど自然相手の「待ったなし」の仕事に全園あげて取り組んでいます。「うちの班はいそがしいよ！」と得意げな利用者さんの顔に励まされる毎日です。

40周年記念冊子の編集との兼ね合いで広報紙「北総の里」の発行を縮小させて頂いた事もあり、前号から4ヶ月ぶりの発行となりました。今号では「特集 40年のご厚情を糧に」と題しまして、創立40周年記念式典での園長挨拶や御礼、また第2回野の花広場・須賀山城址開山祭りの様子を掲載しました。これらの行事は40年の歴史を踏まえ、支えて下さった皆様への感謝の気持ちから開催に至ったものです。そして4ページに渡り「北総の里第43期村議会選挙」の様子をまとめました。この村議会選挙も40年以上受け継がれている北総の大切な文化活動です。入所施設だからこそ出来る豊かな取り組みを讀者の皆様にも感じて頂けたら幸いです。今年度も広報委員会一丸となって読み応えのある広報紙作りに取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願致します。(総鳩)